

2017年

ビジネス
インテリジェンス
トレンド Top 10





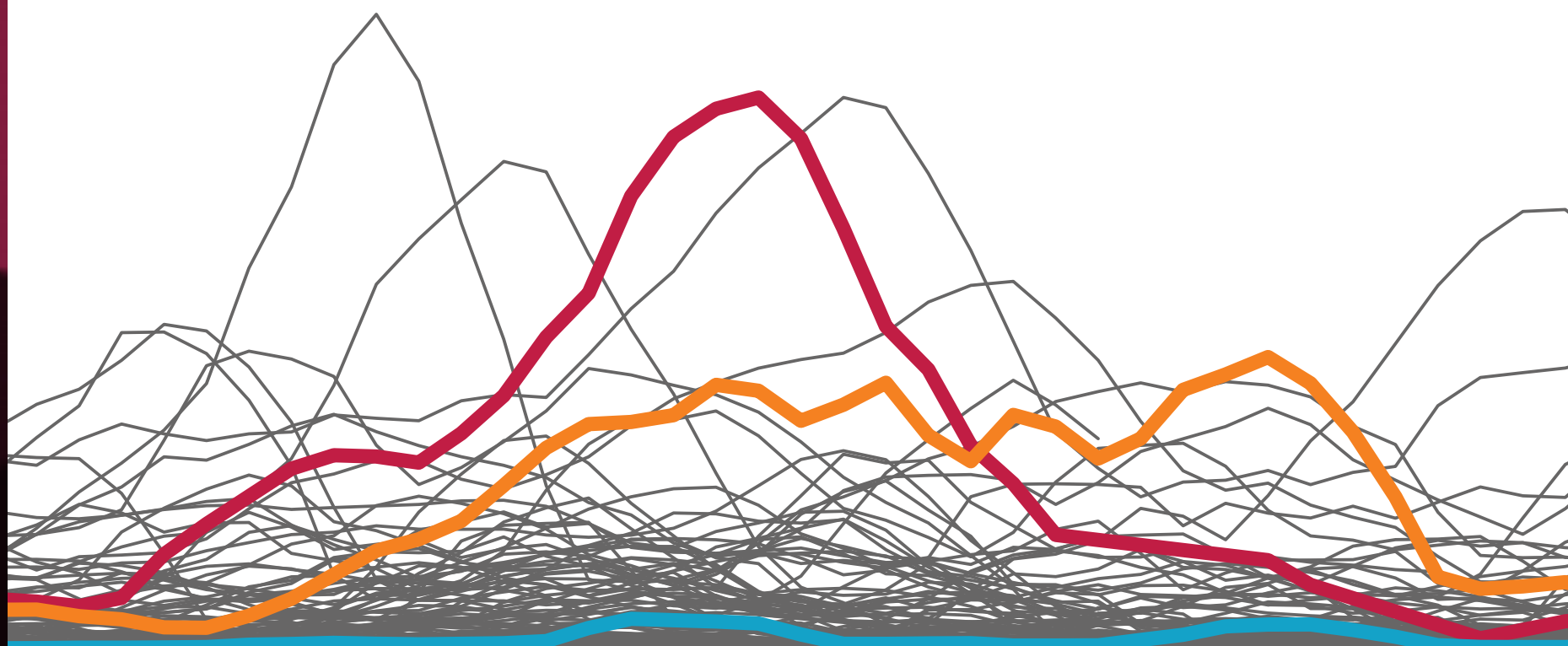
2017 年ビジネスインテリジェンス のトレンド Top 10

この数年で、データは組織に欠かせない力となりました。このデータのをうまく活用して、ビジネスユーザーが競争優位性を見出せるようになっている企業は、他に先駆けてイノベーションを起こしています。このような変化によって、企業では BI に対する従来型の手法と最新のアプローチの間でうまく舵を取る必要に迫られています。具体的には、管理性と俊敏性、ガバナンスとセルフサービスの間でバランスをとる必要性が高まっています。IT 部門と事業部門が互いに協力し合うことで、データの力を最大限に引き出そうという取り組みが始まっています。

次は、どのような方向に進むのでしょうか？

Tableau では、世界中に数十万の顧客を持つエキスパートからの情報や見解をまとめました。

では、Tableau による予想をご紹介します。



MODERN BI

1

最新の BI が新たな標準になる

2016年、分析を少数が行うのではなく多数で行えるようにしようと、組織は最新の BI に移行し始めました。「ここ10～11年以上の傾向であったIT部門中心のレポートングプラットフォームから最新のBIと分析のプラットフォームへの移行が、ついに転換点を越えて爆発的に進んだ」と、ガートナー社の [2016年版ビジネスインテリジェンスのマジック・クアドラント](#) (英語) で述べられています。組織は信頼できるスケーラブルなプラットフォームを利用して、アナリスト以外のユーザーでも管理されたデータを探索し、発見した結果でコラボレーションを行えるようにしつつあります。そして2017年には、グローバル企業から立ち上げられたばかりの新興企業まで、あらゆる企業で最新のBIの導入が最優先事項になることが予想されます。

関連資料:

[BI および分析のマジック・クアドラントを活用したモダナイズ](#) (英語)

共同分析が非主流から 中心的な存在になる

「3人寄れば文殊の知恵」は日常生活のさまざまな場面に当てはまりますが、ビジネス分析も例外ではありません。そして2017年には、管理されたデータが利用しやすくなり、クラウドテクノロジーによって共有が行いやすくなることから、共同分析が注目されることとなります。これは、情報が1方向に流れていた時代の終焉を示唆しています。静的なPDFやPowerPointファイルを介してデータを共有する時代は過ぎ去りました。人々は、ライブのインタラクティブなワークブックとデータソースを共有して、ビジネス上の意思決定を進めるようになります。各人がお互いの仕事の成果を基にして、繰り返し自らの質問に答えを出すようになるでしょう。最新情報を得るために、クラウドのほか、メールアラートやサブスクリプションなどのその他の共有機能を利用します。そして、他のエンタープライズアプリケーションに自身のダッシュボードを埋め込み、その場で人々に情報を伝えるようになります。つまり、人々はその役割にかかわらず、ダッシュボード上のデータの利用から、独自のアドホック分析の実行、さらには発見した結果の他者との共有まで、さまざまなことを行う能力を手に入れます。

関連資料:

[テクノロジーの「民主化」で高まる分析ブーム \(英語\)](#)



あらゆるデータが同等になる

2017年には、データの価値はそのランクやサイズともはや無関係になります。ビッグデータでもシンプルな Excel スプレッドシートでも、価値には影響しません。人々がビジネス上の質問に答えを出して結果を改善するために、すばやく簡単にデータにアクセスして他のタイプのデータとあわせて探索できることが重要になります。2017年にBIは、人々があらゆるタイプ、形、サイズのデータを探索し、意思決定に影響を与えるインサイトを共有できる環境へと移行するでしょう。ビジネスユーザーは、データが Hadoop、Redshift、Excel ファイルのどこにあるかを考える必要がなくなります。データソースがどれだけ分散していても、データの力を引き出せるようになります。

関連資料:

「ビッグデータ」ではもはや不十分: いま重要なのは「ファストデータ」(英語)

セルフサービス分析が データ準備にも拡大する

セルフサービス型のデータディスカバリは標準的になりましたが、データ準備はいまだに IT 部門とデータエキスパートが行っています。この状況は、2017 年に変わることが予想されます。「使いやすさやアジャイル性 (俊敏さ) を求めるトレンドは BI 市場と分析市場を急激に変化させたが、データ統合でも同じトレンドが起こりつつある」と、ガートナー社は述べています。データ解析、JSON や HTML のインポート、データラングリングといった一般的なデータ準備タスクを、専門のスタッフに任せる必要がなくなります。近い将来、だれでも、分析フローの一環としてデータ準備タスクを行えるようになるでしょう。そのとき、データガバナンスをめぐる検討が新たに必要になりますが、すでにこの機会を利用して成果を挙げている IT 部門もあります。IT 部門は、セルフサービスによるデータ準備への移行を導くことによって、組織全体でデータが利用でき、人々が安全なデータ環境で作業することを確認できます。

関連資料:

[BI で次のブームになるセルフサービスによるデータ準備 \(英語\)](#)

埋め込み BI で分析が 日常的なものになる

分析は、人々のワークフローに溶け込んだときに最大の効果を発揮します。企業は職場に分析をますます導入することになります。そのとき、自社のアプリケーションではなく、Salesforce のような他のビジネスアプリケーションを使用している状況にあることも珍しくありません。2017 年には分析が普及し、市場は分析があらゆるビジネスプロセスを強化することを求めるようになります。これにより、店員、コールセンターのスタッフ、トラック運転手といった、これまでデータ探索に馴染みのなかった人々も分析を手がけるようになるでしょう。埋め込み BI により、人々が分析の結果を見ていると気づかないレベルにまで、分析は普及していきます。その状況は、Netflix のおすすめ映画や Pandora のおすすめ音楽で、予測分析が利用されているのとよく似ています。

関連資料:

[埋め込み BI ツールには適所を選ぶ必要がある \(英語\)](#)

IT 部門がデータヒーローになる

IT 部門は数十年にわたって、データを求めるビジネス部門からの要求を満たすために、終わることのないレポート作成の作業に追われてきました。しかしついに、IT 部門がその悪循環を断ち切り、プロデューサー (作成者) からイネーブラー (実現者) に進化する時期が来ました。IT 部門は、大規模なセルフサービス分析への変革をリードする存在です。大きな成果が上がっている組織では、分析チームは「ビジネス部門が信頼を置くパートナーとして機能している」と、ガートナー社は述べています。IT 部門は、ガバナンス、データセキュリティ、コンプライアンスのバランスを取りながら、ビジネス部門が自らを変革するために必要としている柔軟性とアジャイル性を実現しています。そして、組織がビジネスと同じ速さでデータドリブンな意思決定を行えるようにすることにより、IT 部門はビジネスの未来を形作るための支援を行うデータヒーローとして立ち上がります。

関連資料:

[ガートナー社が公に発表: セルフサービスの時代が到来 \(英語\)](#)

人々がより自然な形でデータを活用し始める

データを分析するためのインターフェイスは大きな進歩を遂げました。テクノロジーによって、スクリプトの作成やピボットテーブルは、直感的なドラッグ & ドロップインターフェイスに取って代わられました。そして 2017 年には、自然言語処理や自然言語生成のような分野の向上によるところもあって、データのインターフェイスがいつそう自然に感じられるものへと変わり始めます。自然言語インターフェイスは、BI の新たなツールです。このインターフェイスで、ユーザーは自然言語や自然な文章を使ってデータを操作できるようになり、データ、グラフ、ダッシュボードがこれまで以上に使いやすくなります。これは「標準的なレポートングからストーリーテリングへの進化における次の段階」だと、ガートナー社は述べています。この新しい分野をめぐる健全な懐疑論もありますが、今後の進展が待たれるところです。

関連資料:

[自然言語生成: ビジネスインサイト革命 \(英語\)](#)

クラウドへの移行が加速する

組織がデータをクラウドに移していることから、分析環境もクラウドにあるべきだという認識が主流になります。2017年、データグラビティによって、企業ではデータのある場所で分析環境の導入が進むでしょう。Amazon Redshiftのようなクラウドデータウェアハウスは、データを保持する場所として今後も大きな人気を集め、その結果、クラウド分析がさらに普及します。数多くの組織が、クラウドソリューションとオンプレミスソリューションのハイブリッド型アーキテクチャの展開を続ける一方で、クラウド分析はより高速でスケーラブルなソリューションとして存在感をますます高めていくでしょう。

関連資料:

[クラウドに誘引するデータグラビティ \(英語\)](#)

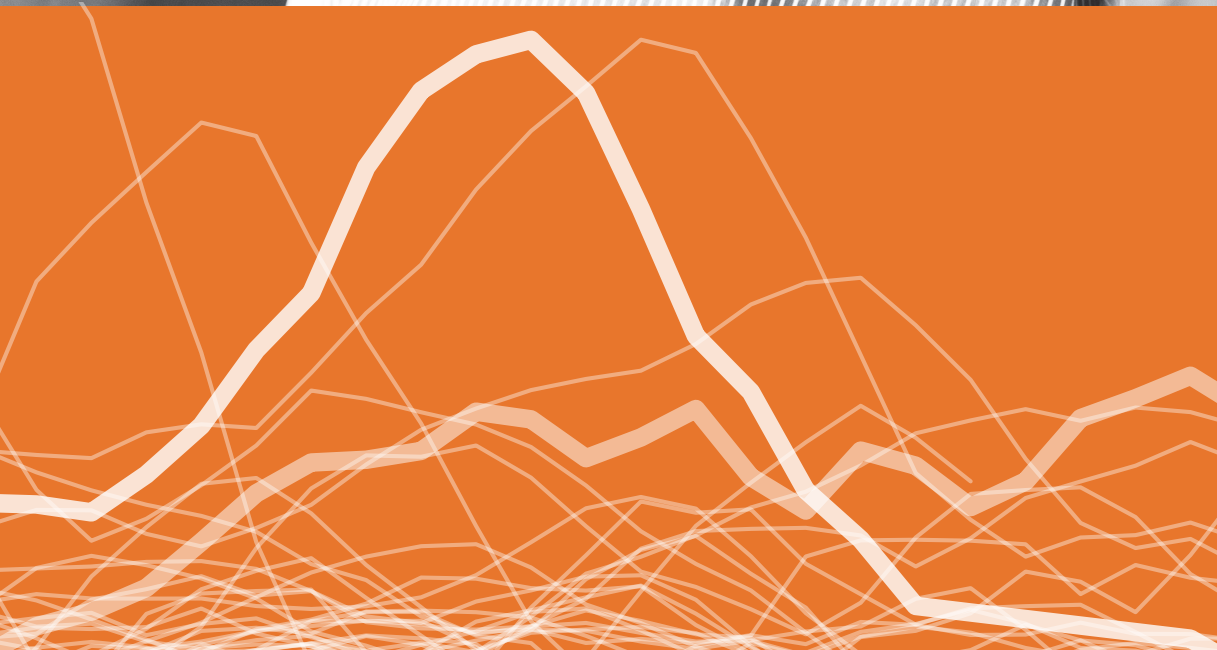


高度な分析環境がさらに 利用しやすくなる

ビジネスユーザーは以前よりデータに詳しくなりました。高度な分析環境も、もっと身近なものになりました。2017年には、この2つの事実が相まって、高度な分析環境がビジネスユーザーにとっての標準となるでしょう。高度な分析環境は、データサイエンティストやデータエキスパートだけのものではなくります。すでにビジネスユーザーは、K平均法や予測といった強力な分析機能を活用しています。2017年も引き続き、ビジネスユーザーは分析のスキルセットを拡張していくでしょう。

関連資料:

[高度予測分析市場の2016年調査結果 \(英語\)](#)





データリテラシーが将来の 基礎スキルになる

2016年、LinkedInでは、就職に強い人気スキルの中にビジネスインテリジェンスが挙げられました。2017年は、あらゆる種類の専門職で、データ分析が必須のコアコンピテンシーになります。Microsoft Word、Excel、PowerPointの技能と同じように、分析の能力は職場で欠かせないものになります。このニーズを満たすために、高等教育と初等中等教育に分析やデータのカリキュラムが浸透していきます。また企業でも、直感的なBIプラットフォームであらゆるレベルの意思決定が促進されることが期待されます。

関連資料:

[コーディングの時代は終わった: ビッグデータで分析的思考を活かす時代が到来 \(英語\)](#)

Tableau について

Tableau は、次にとるべきアクションにつながるインサイトを、お客様がデータから引き出せるように支援しています。ビジュアル分析によって、制限なくデータを探索できます。ダッシュボードを作成し、数回のクリックでアドホックな分析を実行できるようになります。分析は誰とでも共有でき、大きなインパクトをビジネスにもたらすことができます。グローバルな大企業から、中小企業やスタートアップまで、あらゆる場所で多くのお客様が Tableau を使いデータを見て理解しています。

[TABLEAU.COM/TRIAL](https://tableau.com/trial)